

京都市における PRTR 法に基づく届出（平成 21 年度データ）の集計結果について

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（以下、「PRTR 法」という。）では、業種や従業員数等の一定要件を満たす事業者は、毎年、前年度に各事業所で取り扱った化学物質について、大気や河川等の環境中へ排出する量及び廃棄物等として事業所外へ移動する量を把握し、届け出ることを義務付けています。

このたび、平成 22 年度に京都市内の事業所から届出があった「平成 21 年度の化学物質の排出量等」の集計結果を下記のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

記

1 PRTR 法の目的

国及び自治体が、人の健康や動植物に有害な影響を及ぼすおそれのある化学物質の環境への排出量を把握し公表することにより、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、化学物質による環境汚染を未然に防止することを目的としています。

2 事業所からの届出情報

（1）行政区・業種別届出件数

京都市内の 244 事業所から届出がありました。届出内容の内訳は、表－1（次ページ）に示すとおりです。行政区別では、南区の 63 件が最も多く、次いで、伏見区の 47 件、右京区の 32 件の順となっています。業種別では、燃料小売業（ガソリンスタンド）の 107 件が最も多く、次いで製造業の 85 件の順となっています。

表－１ 行政区・業種別の届出件数

行政区 業種名	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見	合計
製造業	2	2	0	8	2	9	1	34	15	0	12	85
食料品製造業	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
繊維工業	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	6
家具・装飾品製造業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
出版・印刷・同関連産業	0	0	0	2	0	0	0	2	4	0	2	10
化学工業	1	0	0	1	1	1	0	9	2	0	4	19
医薬品製造業	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
プラスチック製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4
窯業・土石製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
非鉄金属製造業	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
金属製品製造業	0	1	0	0	0	2	0	7	2	0	2	14
一般機械器具製造業	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	3
電気機械器具製造業	0	0	0	0	0	2	0	6	3	0	0	11
輸送用機械器具製造業	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	4
精密機械器具製造業	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	4
医療用機械器具・医療用品製造業	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他の製造業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
下水道業	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	5
石油卸売業	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4
燃料小売業	5	7	9	4	0	14	14	17	11	2	24	107
自動車整備業	0	0	4	2	0	2	0	8	4	0	4	24
商品検査業	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計量証明業	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
一般廃棄物処理業	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2	6
産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
特別管理産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
高等教育機関	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	5
自然科学研究所	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
合計	7	10	17	16	2	29	17	63	32	4	47	244

(2) 届出された物質

PRTR 法の対象物質である 354 物質のうち、106 物質について届出があり、1 事業所あたりでは平均 4 物質となっています。

届出数が最も多かった物質は、トルエンの 144 件で、次いでキシレンの 140 件、エチルベンゼンの 113 件、ベンゼンの 106 件の順となっており、主に塗料等の溶剤やガソリン中に含まれています。

3 届出排出量及び移動量の集計結果

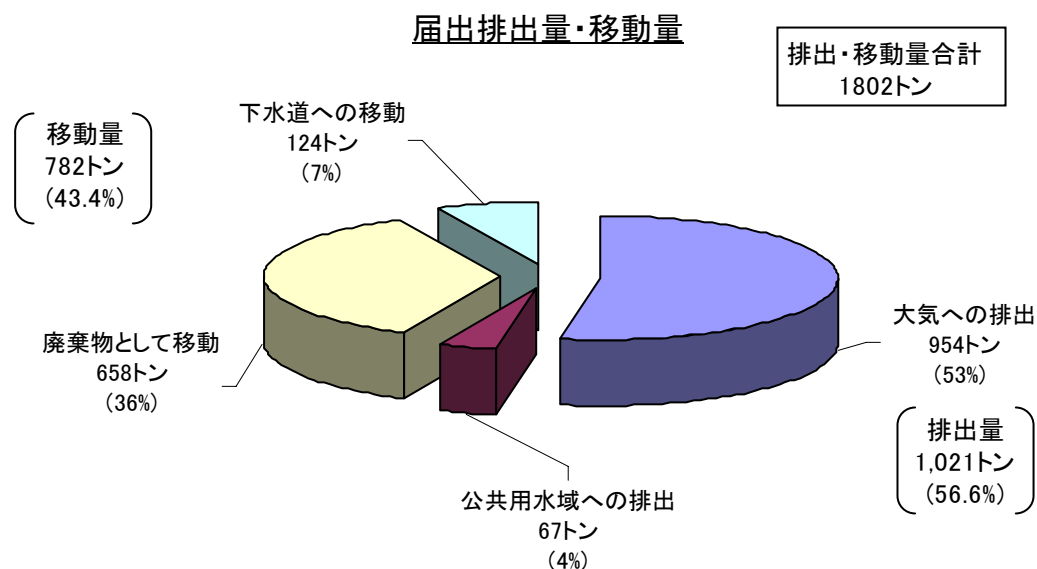
(1) 全事業所及び全物質の排出量・移動量

届出のあった排出量・移動量の合計は 1,802 トンであり、そのうち大気や公共用水域への排出量は 1,021 トン（排出量・移動量合計の 56.6%）、廃棄物や下水道への移動量は 782 トン（同 43.4%）となっています。

排出量の内訳は、大気への排出量が 954 トン（排出量の 93.4%）、公共用水域への排出が 67 トン（同 6.6%）となっており、大部分が大気への排出となっています。

また、移動量の内訳は、廃棄物としての移動量が 658 トン（移動量の 84.1%）、下水道への移動量が 124 トン（同 15.9%）となっており、大部分が廃棄物としての移動となっています。

図－1 届出排出量・移動量の内訳

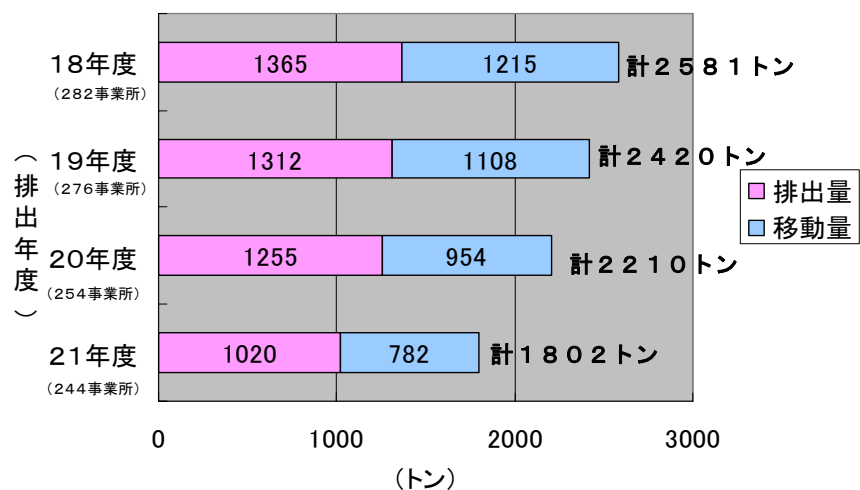


※ 排出量・移動量の合計は、端数を四捨五入しているため合計量と合わない場合があります。

(2) 届出排出量・移動量の経年変化

前年度と比較すると、届出事業所数は10件減少し、大気や公共用水域への排出量は234トン、廃棄物や下水道への移動量は172トン減少しています。

図－2 届出排出量・移動量の経年変化

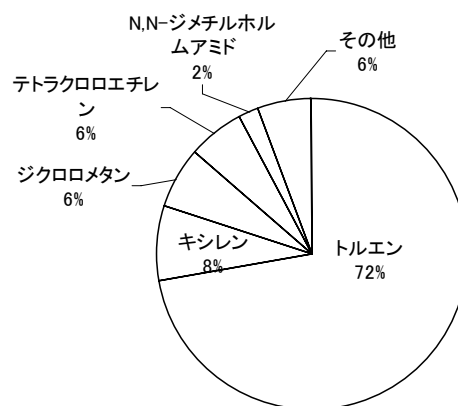


※()内は届出事業所数を示す。

※排出量・移動量の値は、端数を四捨五入しているため合計量と合わない場合があります。

(3) 大気への排出量が多かった物質

排出量のうち、大気への排出量が多かった上位5物質は、表－2に示すとおり、トルエン、キシレン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、N,N-ジメチルホルムアミドの順となっています。これらの物質の大気への排出量の合計は、900トンであり、大気への排出量全体の94.4%を占めています。



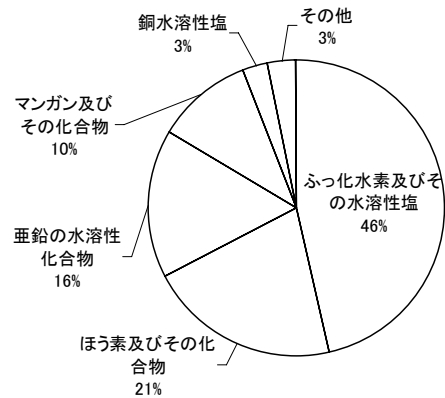
表－2 上位5物質の大気への排出量と各物質の用途

順位	物質名	排出量	用途
1	トルエン	689 トン	合成原料, ガソリン成分, 溶剤
2	キシレン	73 トン	合成原料, ガソリン・灯油成分, 溶剤
3	ジクロロメタン	61 トン	洗浄剤, 溶剤
4	テトラクロロエチレン	56 トン	ドライクリーニング溶剤, 洗浄剤
5	N,N-ジメチルホルムアミド	21 トン	溶剤, 試薬
上位5物質合計		900 トン	—
総計		954 トン	—

(4) 公共用水域への排出量が多かった物質

排出量のうち、公共用水域（河川）への排出量が多かった上位 5 物質は、表－3 に示すとおり、ふっ化水素及びその水溶性塩、ほう素及びその化合物、亜鉛の水溶性化合物、マンガン及びその化合物、銅水溶性塩の順となっています。

これらの物質の公共用水域への排出量の合計は、65 トンであり、公共用水域への排出量全体の 97% を占めています。



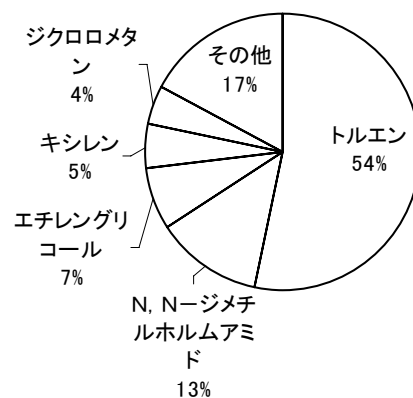
表－3 上位 5 物質の公共用水域への排出量と各物質の用途

順位	物質名	排出量	用途
1	ふっ化水素及びその水溶性塩	31 トン	半導体や金属の研磨
2	ほう素及びその化合物	14 トン	電子工業，ガラス原料
3	亜鉛の水溶性化合物	11 トン	金属表面処理，乾電池
4	マンガン及びその化合物	7 トン	鑄造，電池
5	銅水溶性塩	2 トン	メッキ，農薬原料，電池
上位 5 物質合計		65 トン	—
総計		67 トン	—

(5) 廃棄物として移動量が多かった物質

事業所外への移動量のうち、廃棄物としての移動量が多かった上位 5 物質は、表－4 に示すとおり、トルエン、N,N-ジメチルホルムアミド、キシレン、銅水溶性塩、エチレングリコールの順となっています。

これらの物質の廃棄物としての移動量の合計は、545 トンであり、廃棄物としての移動量全体の 82.8% を占めています。



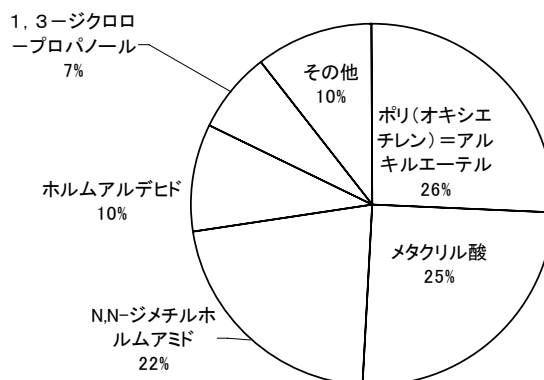
表－4 上位 5 物質の廃棄物としての移動量と各物質の用途

順位	物質名	移動量	用途
1	トルエン	351 トン	合成原料，ガソリン成分，溶剤
2	N,N-ジメチルホルムアミド	83 トン	溶剤，試薬
3	エチレングリコール	46 トン	不凍液，ポリエステル繊維原料
4	キシレン	36 トン	合成原料，ガソリン・灯油成分，溶剤
5	ジクロロメタン	29 トン	洗浄剤，溶剤
上位 5 物質合計		545 トン	—
総計		658 トン	—

(6) 下水道への移動量が多かった物質

事業所外への移動量のうち、下水道への移動量が多かった上位 5 物質は、表－5 に示すとおり、ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル、メタクリル酸、N,N-ジメチルホルムアミド、ホルムアルデヒド、1,3-ジクロロ-2-プロパノールの順となっています。

これらの物質の下水道への移動量の合計は、111 トンであり、下水道への移動量全体の 89.5%を占めています。



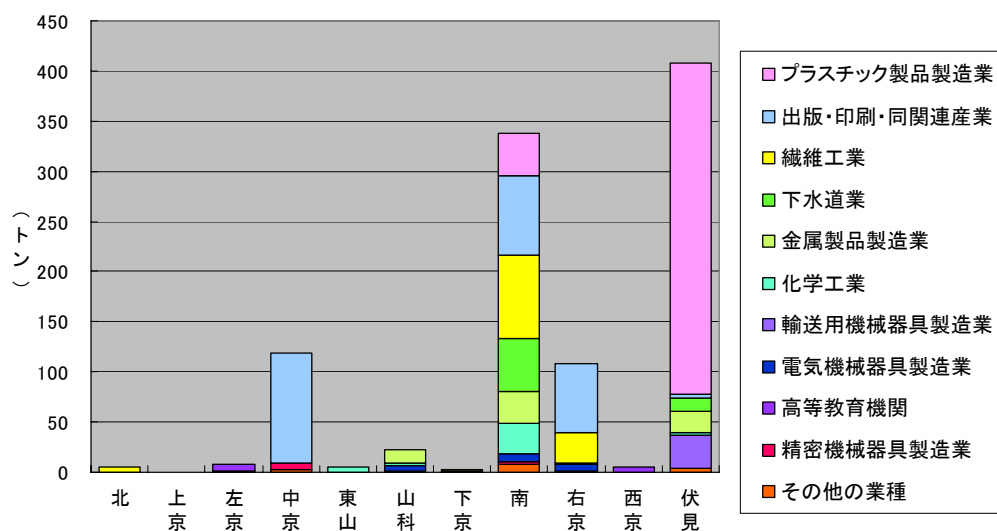
表－5 上位 5 物質の下水道への移動量と各物質の用途

順位	物質名	移動量	用途
1	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル	32 トン	界面活性剤, 乳化・分散剤
2	メタクリル酸	31 トン	重合原料, 加工剤
3	N,N-ジメチルホルムアミド	27 トン	溶剤, 試薬
4	ホルムアルデヒド	12 トン	重合・合成原料
5	1,3-ジクロロ-2-プロパノール	9 トン	溶剤, 合成中間体
上位 5 物質合計		111 トン	—
総計		124 トン	—

(7) 行政区・業種別排出量

排出量の内訳は、表－6（次ページ）に示すとおりです。行政区別では伏見区の 407 トンが最も多く、次いで南区の 338 トン、中京区の 119 トンの順となっています。業種別ではプラスチック製造業の 373 トンが最も多く、次いで出版・印刷・同関連産業の 260 トン、繊維工業の 120 トンの順となっています。

図－3 行政区別の排出状況



表－6 行政区・業種別の排出量

単位：kg／年

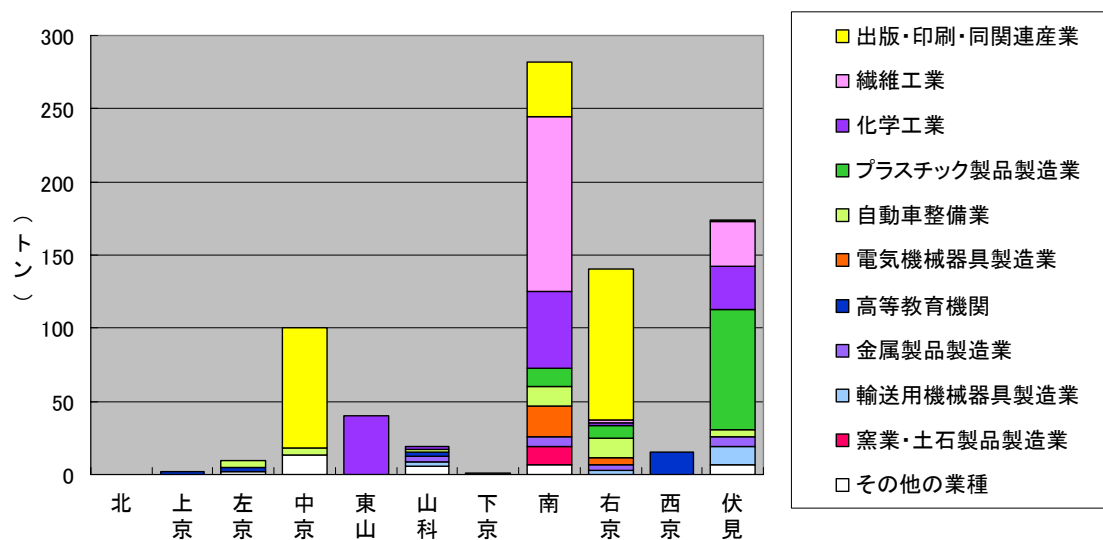
行政区 業種別	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見	合計	割合
製造業	4,812	0	0	118,493	4,994	20,537	1,000	280,286	107,357	0	391,078	928,557	91.1%
食料品製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
繊維工業	4,800	0	0	0	0	0	1,000	84,100	30,000	0	0	119,900	11.8%
家具・装飾品製造業	0	0	0	0	0	0	0	580	0	0	0	580	0.1%
出版・印刷・同関連産業	0	0	0	109,960	0	0	0	78,400	68,530	0	2,900	259,790	25.5%
化学工業	12	0	0	33	4,994	2,490	0	31,073	10	0	2,308	40,920	4.0%
医薬品製造業	0	0	0	0	0	200	0	0	0	0	0	200	0.0%
プラスチック製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	42,400	235	0	330,000	372,635	36.5%
窯業・土石製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	1,117	0	0	0	1,117	0.1%
非鉄金属製造業	0	0	0	0	0	42	0	48	0	0	0	90	0.0%
金属製品製造業	0	0	0	0	0	13,000	0	30,900	901	0	21,200	66,001	6.5%
一般機械器具製造業	0	0	0	1,500	0	0	0	1,800	0	0	0	3,300	0.3%
電気機械器具製造業	0	0	0	0	0	4,805	0	7,868	6,340	0	0	19,013	1.9%
輸送用機械器具製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	1,341	0	33,500	34,841	3.4%
精密機械器具製造業	0	0	0	7,000	0	0	0	2,000	0	0	0	9,000	0.9%
医療用機械器具・医療用品製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他の製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,800	1,800	0.2%
下水道業	0	0	0	0	0	0	0	52,958	0	0	13,603	66,561	6.5%
石油卸売業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0.0%
燃料小売業	416	364	794	310	0	1,381	614	1,490	1082	303	2,108	8,862	0.9%
自動車整備業	0	0	0	0	0	0	0	3,000	0	0	0	3,000	0.3%
商品検査業	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	110	0.0%
計量証明業	0	0	0	280	0	0	0	0	0	0	0	280	0.0%
一般廃棄物処理業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
特別管理産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
高等教育機関	0	1	7,446	0	0	32	0	0	0	4,760	0	12,239	1.2%
自然科学研究所	0	0	31	0	0	0	0	83	0	0	0	114	0.0%
合計	5,228	365	8,271	119,193	4,994	21,950	1,614	337,817	108,439	5,063	407,421	1,020,354	100.0%
割合	0.5%	0.0%	0.8%	11.7%	0.5%	2.2%	0.2%	33.1%	10.6%	0.5%	39.9%	100.0%	－

※排出量の合計・割合は、端数を四捨五入しているため本集計表の縦・横方向に合計した値と異なる場合があります。

(8) 行政区・業種別移動量

業種別・行政区別の移動量の内訳は、表－7（次ページ）に示すとおりです。行政区別では南区の282トンが最も多く、次いで伏見区の173トン、右京区の140トンとなっています。業種別では、出版・印刷・同関連産業の223トンが最も多く、次いで繊維工業の152トン、化学工業の126トンの順となっています。

図－4 行政区別の移動状況



表－6 行政区・業種別の移動量

単位：kg／年

行政区 業種別	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見	合計	割合
製造業	36	90	0	86,799	39,834	14,073	0	262,874	127,563	0	169,020	700,289	89.6%
食料品製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
繊維工業	0	0	0	0	0	0	0	119,604	1,300	0	31,000	151,904	19.4%
家具・装飾品製造業	0	0	0	0	0	0	0	86	0	0	0	86	0.0%
出版・印刷・同関連産業	0	0	0	81,780	0	0	0	37,400	103,942	0	100	223,222	28.5%
化学工業	36	0	0	89	39,574	2,037	0	52,687	2,505	0	29,508	126,436	16.2%
医薬品製造業	0	0	0	1,400	0	2,100	0	0	0	0	0	3,500	0.4%
プラスチック製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	12,100	7,970	0	82,212	102,282	13.1%
窯業・土石製品製造業	0	0	0	0	0	0	0	12,088	0	0	0	12,088	1.5%
非鉄金属製造業	0	0	0	0	0	3,547	0	491	0	0	0	4,039	0.5%
金属製品製造業	0	90	0	0	0	3,760	0	7,016	3,885	0	6,800	21,551	2.8%
一般機械器具製造業	0	0	0	2,100	0	0	0	0	0	0	0	2,100	0.3%
電気機械器具製造業	0	0	0	0	0	0	0	21,395	4,688	0	0	26,082	3.3%
輸送用機械器具製造業	0	0	0	0	0	2,629	0	0	3,273	0	13,000	18,902	2.4%
精密機械器具製造業	0	0	0	1,430	260	0	0	7	0	0	0	1,697	0.2%
医療用機械器具・医療用品製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他の製造業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,400	6,400	0.8%
下水道業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
石油卸売業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
燃料小売業	0	0	0	0	0	0	0	2,500	0	0	0	2,500	0.3%
自動車整備業	0	0	4,470	4,400	0	1,701	0	12,869	13,200	0	4,400	41,040	5.2%
商品検査業	0	0	0	2,900	0	0	0	0	0	0	0	2,900	0.4%
計量証明業	0	0	0	5,800	0	0	0	0	0	0	0	5,800	0.7%
一般廃棄物処理業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
特別管理産業廃棄物処分業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
高等教育機関	0	1,700	3,034	0	0	3,000	0	0	0	15,012	0	22,746	2.9%
自然科学研究所	0	0	1,800	0	0	0	1,100	3,700	0	0	0	6,600	0.8%
合計	36	1,790	9,304	99,899	39,834	18,775	1,100	281,943	140,763	15,012	173,420	781,875	100%
割合	0.0%	0.2%	1.2%	12.8%	5.1%	2.4%	0.1%	36.1%	18.0%	1.9%	22.2%	100%	－

※排出量の合計・割合は、端数を四捨五入しているため本集計表の縦・横方向に合計した値と異なる場合があります。